

平成20年度 第63回国民体育大会 関東ブロック大会 バasketボール競技

平成 20 年 8 月 16 日 (土) 試合開始 11:30 試合終了 12:50

【少年女子】 1回戦 富士北麓公園 体育館 Bコート 第 2 試合

千	葉	85	$\left\{ \begin{array}{l} 29 - 21 \\ 14 - 10 \\ 25 - 13 \\ 17 - 23 \\ - \end{array} \right\}$	67	栃	木
---	---	----	---	----	---	---

千 葉

番号	氏 名	得 点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト パ ス	スティール	ブロック ショット	ターン オーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		DF	OF	計				
4*	小林 礼奈	8	0	1	4	4	0	0	2	0	1	1	0	1	0	1
5*	大江 美香	10	0	1	5	17	0	0	0	2	2	4	1	2	1	0
6	長尾 彩美	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	望月 桜子	4	0	4	2	5	0	0	1	2	1	3	1	0	0	1
8*	元山 夏菜	16	0	0	7	12	2	2	1	1	4	5	2	0	3	2
9	北館 美保	9	1	2	3	7	0	0	0	1	4	5	0	2	0	0
10*	大河原 晶子	8	0	0	3	7	2	2	2	4	1	5	0	1	1	2
11	磯谷 未来	17	0	2	6	12	5	7	4	2	2	4	0	2	1	2
12	鈴木 茉里菜	4	0	0	2	3	0	0	2	1	1	2	0	0	0	0
13	菊崎 祥子	3	1	2	0	1	0	0	1	1	0	1	6	1	0	3
14	小菅 由香	6	0	0	3	5	0	0	0	1	1	2	2	1	1	0
15*	常田 実咲	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1
HC 鈴木 親光 / チーム		0			0	0			0	2	0	2				1
合 計		85	2	15	35	73	9	11	13	17	17	34	14	11	7	13

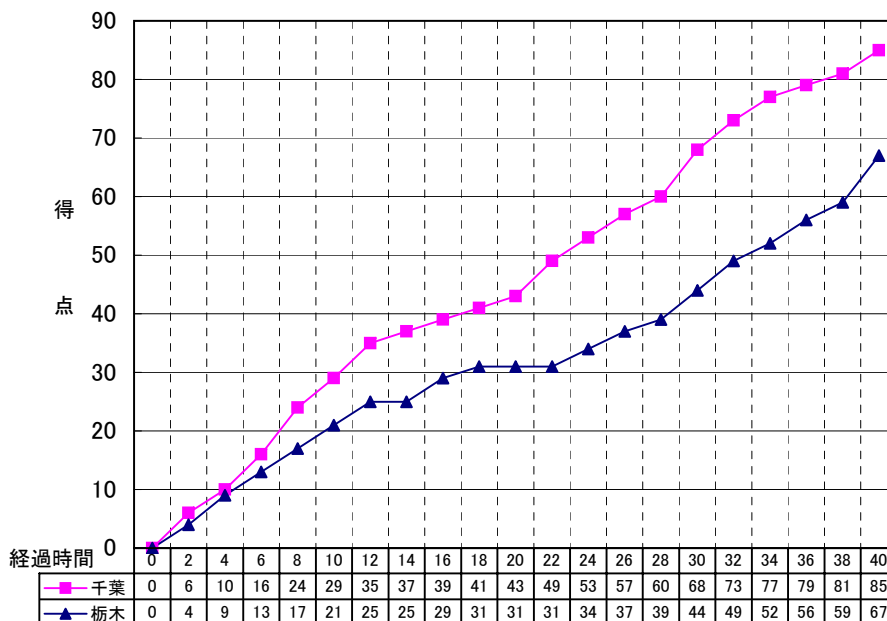
*はスターティングメンバーを表す 確率 13.3% 47.9% 81.8%

栃 木

番号	氏 名	得 点	3ポイント		2ポイント		フリースロー		ファウル	リバウンド			アシスト パ ス	スティール	ブロック ショット	ターン オーバー
			成功	試投	成功	試投	成功	試投		DF	OF	計				
4*	山 理菜	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	0	1	2	0	3
5*	山田 早希子	22	2	3	6	15	4	4	3	1	5	6	1	1	1	4
6	野方 万葉	4	0	1	1	6	2	2	2	1	3	4	0	0	1	2
7*	石川 あゆみ	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1	2	0	1	1
8*	石橋 志織	5	1	5	1	1	0	0	2	0	2	2	0	2	0	3
9	佐々木 恵	2	0	0	1	4	0	0	0	2	1	3	0	3	0	0
10*	岡田 未来	26	4	11	7	11	0	0	0	1	0	1	3	5	0	2
11	野口 真央	3	0	0	1	4	1	2	0	1	1	2	0	1	0	0
12	浅野 祐未	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	黒崎 唯里	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1
14	左奈田 みづき															
15	神山 佳奈	5	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
HC 香山 孝之 / チーム		0			0	0			0	1	0	1				2
合 計		67	8	23	18	48	7	8	12	8	12	20	8	16	3	18

*はスターティングメンバーを表す 確率 34.8% 37.5% 87.5%

2分毎による得点の推移



戦評

お互いマンツーマンディフェンスで、千葉は⑩大河原のポストプレーを、栃木は⑩岡田の1対1や3Pを中心に攻防がスタートした。出だしから千葉がリードをしていたが、5分過ぎに栃木のエンドプレーが決まり逆転した。しかし、千葉はメンバー交代後、ディフェンスのプレッシャーを激しくし、⑩磯谷などの速攻で、突き放し、1Qは千葉8点リードで終わった。2Qに入り、栃木はオールコートでトランプを仕掛け、ディフェンスに変化を加えた。それに対し千葉は、途中ミスをするものの、④小林の1対1、⑧元山のリバウンドシュートなどで得点を重ねる。一方栃木は、千葉のディフェンスのプレッシャーから攻めあぐみ前半を43対31で千葉リードでおりかえした。3Qになり、栃木はマンディフェンスにきりかえる。それに対して、千葉は⑤大江のポストプレー、⑧元山のリバウンドシュートで対応し点差を広げていく。栃木は⑩岡田の3Pと⑤山田の1対1で頑張りをみせるが、千葉の高さあるディフェンスからゴール下での点が取れず苦しい展開となり千葉が24点差をつけて終了する。4Q、栃木はオールコートマンツーマンに戻す。千葉は落ち着いてプレスタウンをし④小林、⑦望月の速攻や⑩菊崎の3Pなどで安定して得点する。栃木は最後まであきらめずにオールコートでディフェンスし頑張るが、最後は85対67で千葉が勝利した。

主 審 吉 田 憲 生
(埼玉)

副 審 丸 山 淳
(山梨)

記入者 小 塚 純
(山梨)